

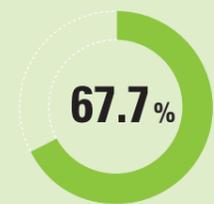
## セグメント別事業概況

# 工作機械事業

世界首位級のシェアを持つ放電加工機をはじめ、精密マシニングセンタや金属3Dプリンタなど幅広いラインナップの製品を提供。自動車関連業界や、スマートフォン、デジタルカメラなどに代表されるエレクトロニクス関連業界など、幅広い分野で高い評価を獲得しています。

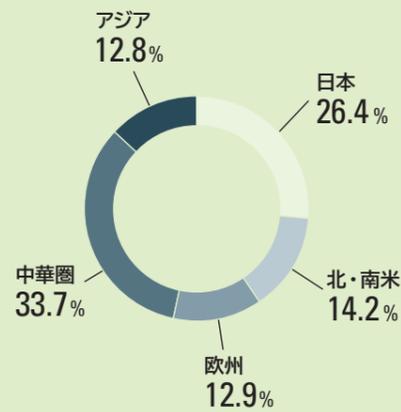


売上高構成比

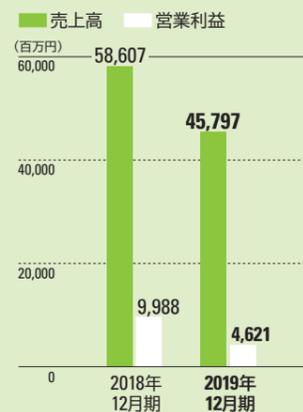


売上高  
**45,797** 百万円  
セグメント利益  
**4,621** 百万円

地域別売上高構成比



売上高・営業利益



### ■ 主な用途

金型製造、部品加工

### ■ 主な顧客

自動車、IT、スマートフォン、電気電子部品、航空宇宙、医療機器など

### ■ 主な製品

形彫り放電加工機、ワイヤ放電加工機、細穴加工機、金属3Dプリンタ、精密マシニングセンタ、CAD-CAM、電子ビーム

### ■ 事業環境

- 自動車産業・航空宇宙産業の変革（自動運転・EV・電装化、部品軽量化、他業種の参入、新素材の採用など）
- 通信ネットワークの拡大（5G、ビッグデータ、スマートフォンの高機能化など）
- ものづくりの高度化に伴う高精度加工設備需要の拡大
- 省人化・自動化ニーズの高まり

### ■ 強み

- 放電加工機の主要市場でのプレゼンス
- ハイエンド機市場における世界首位級のシェア
- コア技術の内製化
- リニアモータ搭載による高精度加工
- 金型市場での圧倒的なブランド力
- 造形と切削のハイブリッド金属3Dプリンタ
- 3カ所の海外工場と13カ国にわたる営業拠点

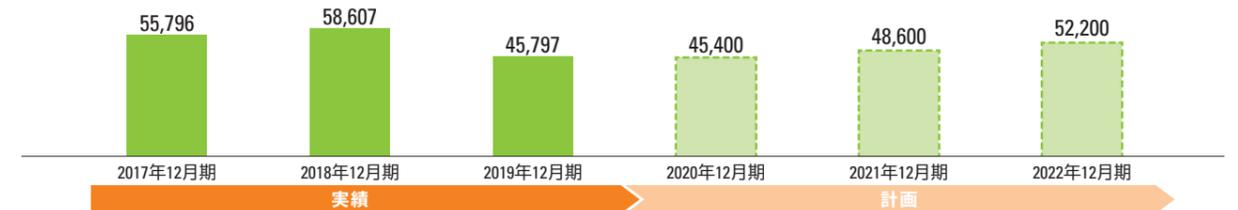
## 2019年12月期の総括

北米の航空宇宙および医療機器関連は底堅い需要が継続しましたが、当社の最大市場である中国をはじめ世界的に長引く米中貿易摩擦の影響などにより、自動車やスマートフォン、電子部品など幅広い産業で設備投資を先送りする傾向が強まり、放電加工機の販売台数が大幅に減少しました。セグメント利益も販売台数の減少に伴う工場稼働率の低下や固定費の増加などにより前年同期比で大幅に減少しました。研究開発においては、近年自動車関連を中心に需要が拡大している大型でより複雑な金型加工のニーズに対応した形彫り放電加工機「AG200L」を開発。営業活動においては、中国国際工作機械展覧会「CIMT2019」、欧州国際工作機械見本市「EMO2019」、工作機械展示会「MECT2019」など世界的な国際見本市をはじめ多数の展示会に出展し、ソディックブランドの浸透と拡販に努めました。また、ASEAN地域における最先端のものづくりをサポートすることを目的に、シンガポールにテクノセンターを設立、営業体制の強化を図りました。

## 2020年12月期の見通しおよび戦略

工作機械事業は、中国を中心に自動車、IT、電子部品分野においてものづくりの高度化による高精度機の潜在的な需要が存在しますが、昨年に続く米中貿易摩擦の長期化による海外経済の減速が見込まれ、低調に推移する見通しです。さらに足元では新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大しており、生産や営業活動に影響が出ているほか、サプライチェーンの混乱なども懸念され、市場環境の先行きには一層の不透明感が高まっています。こうしたなか、当社はコストダウンや生産効率・業務効率の向上に注力していくと同時に、中長期的に自動車産業のCASEや5Gの普及に伴う高精度機需要や自動化・生産性向上をキーワードとした製品の販促に努めていきます。

工作機械事業の売上高実績と計画（百万円）



※新型コロナウイルス感染拡大の影響については、業績計画に織り込んでおりません。

## TOPIC

### 大型化と微細化それぞれに対応する製品を開発

当社は2019年9月、大型自動車部品に用いられる金型の加工性能向上に貢献する高速・高性能形彫り放電加工機「AG200L」を発売しました。専用設計した放電電源装置や独自の放電制御技術を搭載しており、高速かつ高精度な加工を実現できます。ものづくりをリードする画期的な性能が評価され、日刊工業新聞社主催の「2019年（第62回）十大新製品賞モノづくり賞」を受賞しました。また、同年10月には、微細精密領域における油加工液仕様での高速加工を実現する超精密ワイヤ放電加工機「AP350L (oil)」を発売しました。長時間の自動連続運転が可能であることに加え、加工の再現性・安定性やメンテナンス性も従来製品より向上しています。また、NC

装置の稼働状況を遠隔で一元管理できるSodick-IoT「S-Viewer」を搭載しており、機械稼働率の向上にも貢献します。



AG200L

AP350L (oil)

## セグメント別事業概況

# 産業機械事業

産業機械事業では、プラスチックなどの資源の有効活用と、環境への思いやりを配慮した射出成形機の製造販売を手掛けています。プラスチック部品は、その軽量性や多機能性から、私たちの身近な一般消費材である電気、電子、自動車、医療などさまざまな製品に採用されています。

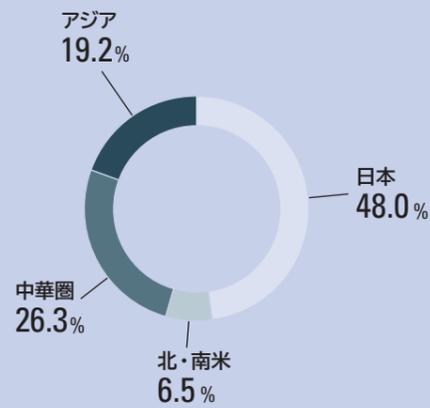


### 売上高構成比

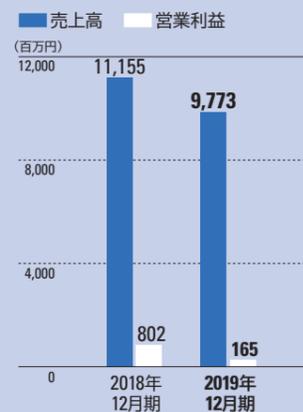


売上高  
**9,773**百万円  
セグメント利益  
**165**百万円

### 地域別売上高構成比



### 売上高・営業利益



### ■ 主な用途

プラスチック商品およびその他難材料、特殊材料、軽金属などの製造

### ■ 主な顧客

自動車、IT、スマートフォン、電気電子部品、医療機器など

### ■ 主な製品

横型射出成形機、縦型射出成形機、軽金属射出成形機

### ■ 事業環境

- 自動車産業の変革（部品軽量化・電装化、他業種の参入、新素材の採用など）
- 通信ネットワークの拡大（5G、ビッグデータ、スマートフォンの高機能化など）
- ものづくりの高度化に伴う高精度加工設備需要の拡大
- 環境規制への対応（生分解性プラスチックなど）
- 省人化・自動化ニーズの高まり

### ■ 強み

- V-LINE®による安定・高精度成形
- 放電加工機の販売網
- 特殊機への対応力
- 難材料（シリコン・PEEK材、生分解性プラスチック）の成形

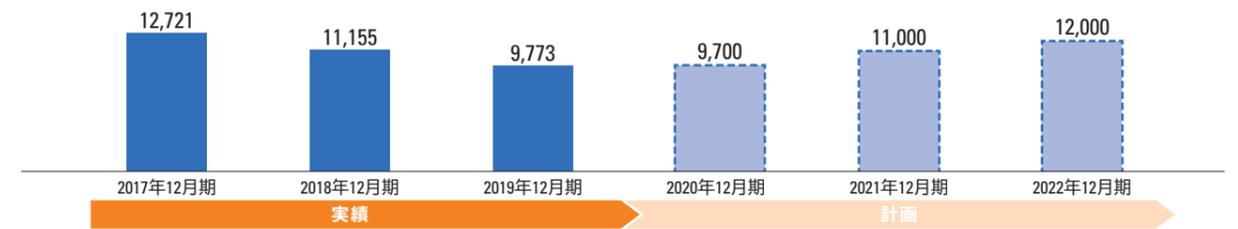
## 2019年12月期の総括

米中貿易摩擦による国内外の設備投資の先送りの傾向が見られたほか、日本や中国およびアジア地域では主力のスマートフォンおよび電子部品関連の需要が高まらず、販売台数が減少しました。一方で、足元では国内の自動車関連の需要が見られたほか、光学レンズの成形、5G対応に向けたインフラ整備に関する需要が始めました。セグメント利益は、研究開発費の増加や展示会出展にかかわる一時的費用などが影響し、前期比大幅減少しました。研究開発においては、安定的な精密成形技術であるV-LINE®のさらなる生産性向上を実現した型締力490kN（50トン）の縦型単動射出成形機「VT50」を新たに開発し、自動運転・センシング、5G通信などで需要が増加する狭ピッチ化・低背化した精密コネクタなどの生産性向上に貢献しました。

## 2020年12月期の見通しおよび戦略

工作機械事業同様、当社の最大市場である中国を中心としてIT、電子部品、自動車分野などにおいて、ものづくりの高度化による高精度機の潜在的な需要はありますが、米中貿易摩擦の長期化による海外経済の減速、新型コロナウイルスの感染拡大などにより設備投資需要は依然として低調に推移する見通しです。こうしたなか、当社は海外売上高比率70%以上をめざし、中長期的な視点から各種の施策に取り組んでいきます。製品開発においては、軽金属射出成形機の開発と量産化に向けた活動、営業活動においては欧州、インドなど成長市場の販売体制の強化とともに、自動生産システム「ICF-V」の拡販やIoT・AIによる予防保全・状態管理などのソリューションサービスの提供、生産活動においては海外生産比率の向上や部品共通化などコストダウン施策に注力していきます。

### 産業機械事業の売上高実績と計画（百万円）



## TOPIC

### 欧州での展示会K-Showに初出展

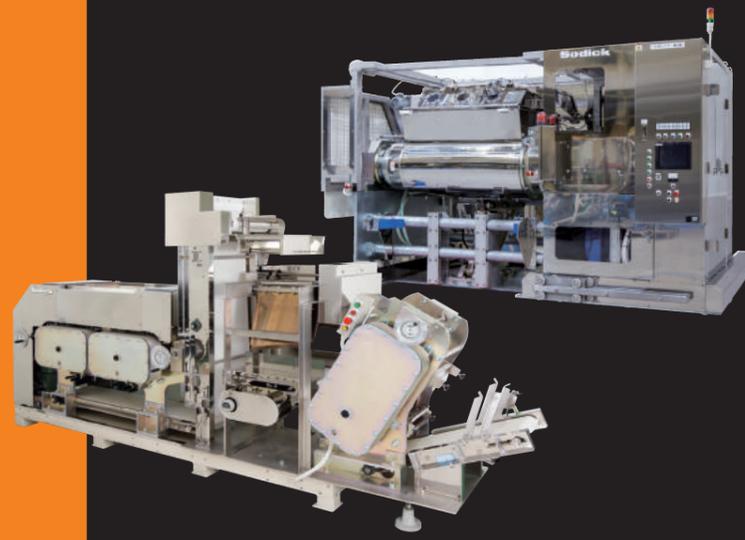
当社は2019年10月にドイツのデュッセルドルフ・メッセ会場で開催された世界最大級のプラスチック・ゴム見本市「K-Show」に出展しました。欧州での成形機の展示会に出展するのは、当社にとって初めてのことで、3年に一度開催されるこのイベントでは、開発中の先進技術が積極的に公開され、当社にとって市場動向を調査する重要な機会となります。当社は高応答射出を搭載した「GL30-LP」を実演出展し、微細な部品の精密成形における優位性をアピールしました。今後も、こうした展示会への積極的な出展を通じて、欧州での成形機の販売拡大をめざしていきます。



展示会での当社ブース

# 食品機械事業

食品機械事業は、製麺機、茹麺プラント、米飯装置など600機種以上の食品機械ラインナップの中から、コンビニやスーパーなどで売られているうどん、そば、ラーメンなどを製造するのに最適な1台をお客様へご提案しています。また、安全で安心して健康なおいしい食文化を創造していくことにも貢献しています。

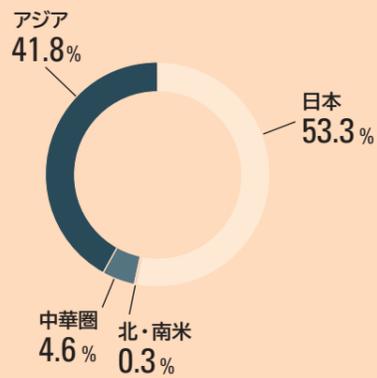


売上高構成比

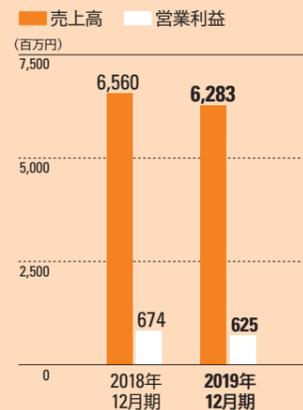


売上高  
**6,283**百万円  
セグメント利益  
**625**百万円

地域別売上高構成比



売上高・営業利益



## 主な用途

生麺（うどん、そば、中華麺など）、  
冷凍麺、ロングライフ麺、無菌包装米飯、製菓、総菜

## 主な顧客

大手食品メーカー、外食チェーン、  
冷凍食品メーカーなど

## 主な製品

製麺機、自動茹麺装置・蒸麺装置・殺菌装置、  
無菌包装米飯製造システム、惣菜関連装置

## 事業環境

- 海外における日本食の浸透
- 高品質な調理麺ニーズの増加
- パックご飯の日常的消費の拡大
- 中食市場の拡大
- 省人化・自動化ニーズの拡大
- 衛生管理・安全性のさらなる向上

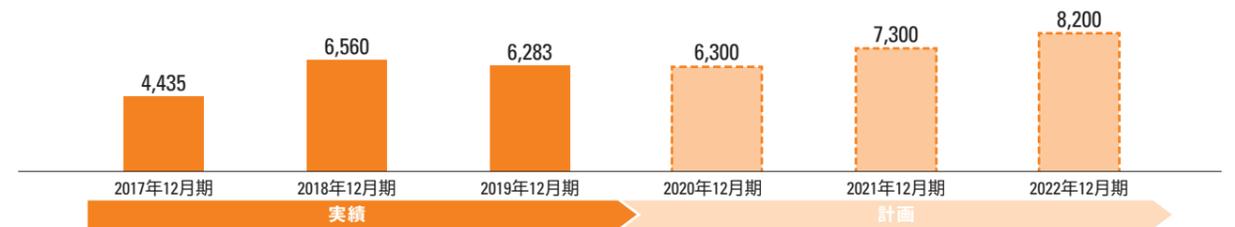
## 強み

- 製麺機市場ではダントツの市場シェア
- 製麺機、無菌包装米飯装置のフルラインの設備提供
- 装置開発、ソフト開発などの技術シナジー

## 2019年12月期の総括

各種製麺機、麺製造プラント、無菌包装米飯製造装置などの開発・製造・販売、保守サービスを行う食品機械事業は、高品質な調理麺の製造設備需要が引き続き堅調に推移したほか、無菌包装米飯製造装置の需要も国内外で増加しました。また、衛生面や省人化を目的とした自動化設備の需要も拡大しましたが、世界経済の減速による設備投資の先送りの動きもあり、今期の売上高は前年対比で若干減少しました。研究開発においては、食品の原材料の温度調整の適正化および品質安定化に対応した「粉体冷却装置」をはじめ、市場のニーズに対応した新製品の技術を開発しました。営業活動では、国際食品工業展「FOOMA JAPAN 2019」に出展し、惣菜づくりに活用できる粉体冷却装置や、穀物、生野菜・根菜、果物など食品の剥皮装置などの新分野向け製品をアピールしました。

食品機械事業の売上高実績と計画（百万円）



※新型コロナウイルス感染拡大の影響については、業績計画に織り込んでおりません。

## TOPIC

### 食品機械見本市「FOOMA JAPAN 2019」に出展

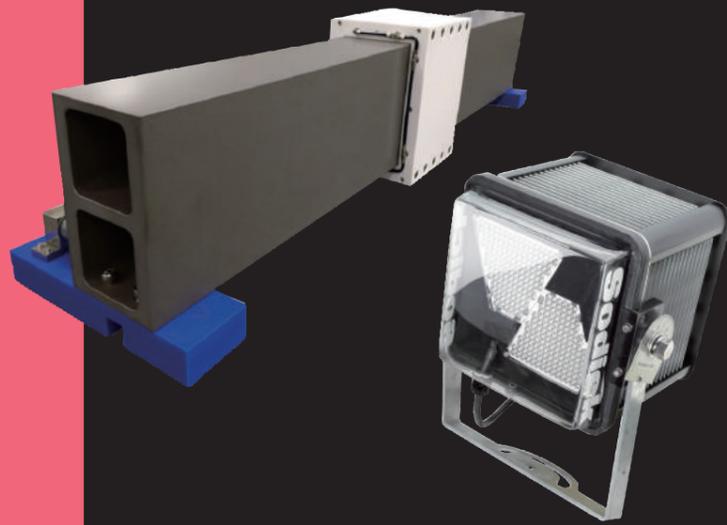
東京ビッグサイトにて開催された国際的な食品機械の展示会「FOOMA JAPAN 2019」に出展しました。国内外において「食の安全・安心」に関心が高まるなか、製麺機をはじめとした最先端食品機械群を展示しました。国内のお客様だけでなく、今後成長が見込める中国やアジア圏からのお客様も多く来場され、当社製品を大いにアピールできる機会となりました。ここで初出展した新製品の粉体冷却装置は、生地を原材料を迅速・均一に冷却できるうえ、既存の製造設備と連続した自動運転が可能です。製麺、米飯業界に加え、製パン、製菓業界など新たな業界への展開を進めていきます。



## セグメント別事業概況

# その他事業

モーションコントローラやLED、セラミックスなど、当社が内製化している独自技術を活用した製品を多数提供しています。

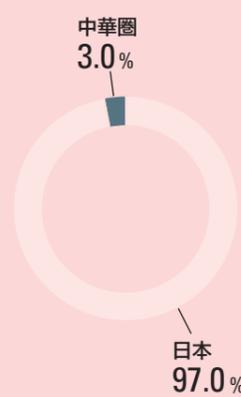


### 売上高構成比



売上高  
**5,737** 百万円  
セグメント利益  
**311** 百万円

### 地域別売上高構成比



### 売上高・営業利益



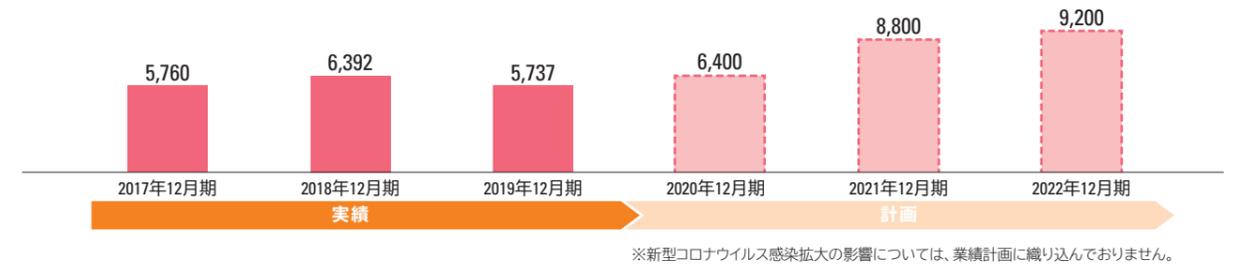
## 2019年12月期の総括

その他事業は、自動車部品メーカーに対して精密コネクタなどの受託生産を行う金型成形事業、リニアモータやセラミックス部材など内製化プロセスから生まれた製品を販売する要素技術事業で構成されています。金型成形事業は足元で自動車関連向けの需要は回復傾向にある一方で、セラミックスは、半導体製造装置メーカー向けの需要の減速に伴い要素技術事業の販売は伸び悩みました。また、中長期的な事業拡大に向けた製造設備の能力増強や自動化対応のための研究開発投資が先行したこともあり収益性の回復には至りませんでした。

## 2020年12月期の見通しおよび戦略

金型成形事業においては自動車関連向けに、セラミックスの外販事業においては半導体関連向けに需要が回復する見通しです。中長期的な事業拡大に向けて金型成形事業では自動化・省人化に向けた生産設備の能力増強に努めています。

### その他事業の売上高実績と計画 (百万円)



### 主な用途

金型設計・製造、  
プラスチック成形品の生産、  
リニアモータ応用製品およびその制御機器・  
セラミックス製品・LED照明などの開発・製造・販売

### 事業環境

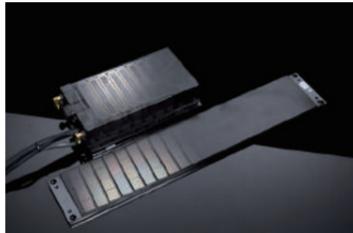
- 自動車、半導体関連の継続的な需要
- 半導体製造装置メーカー向けの継続的な需要
- 自動車産業の変革（部品軽量化・電装化など）

### 主な製品

セラミックス



リニアモータ



LED



## TOPIC

### 世界最長クラス5.5mセラミックスの製造に成功

近年の超精密加工機（ナノマシン）や液晶パネル製造装置などに代表される精密機械装置は、従来の金属材料構造体では顧客の要求精度を満たせないことから、セラミックス構造体に変わりつつあります。こうしたなか、ソディックエフ・ティの加賀工場では、2019年、従来の製造可能サイズである最大4mを大幅に上回る世界最長クラスの5.5m長尺セラミックスの製造に成功しました。今後も、時代の要請に応える技術革新を取り入れ、他社との差別化を図る内製化を通じて製造装置向け部材の需要増加や大型化への対応を強化し、売り上げの増大をめざしていきます。



加賀工場のセラミックス焼成炉